

実施日：令和7年6月5日（木） コマ：3

事業名：地方空港等受入環境整備事業

【とりまとめコメント】

- ・ 外国人旅行者数は、本事業の目的というよりは、むしろ、所与のものとして位置付けるべきで、長期アウトカムから外したほうが効果発現の経路が明確化できる。事業の本来の目的は空港の体制整備による機能の持続性の確保であり、直面する課題を踏まえれば、人材の獲得・維持拡大、その実態につながる就業者の状態（処遇改善、ES など）、あるいは、自動化・機械化等による代替の進捗等をアウトカムとすべき。
- ・ 2030年に訪日外国人旅行者6000万人を長期アウトカムとして設定しているところ、それに関連した空港業務職員数、受け入れ便数の目標数値が記載されていない。また同数値の実績数値や目標数値とのギャップ分析が実施されておらず、EBPMの取り組みとしては不十分と考えられる。今後改善されたい。
- ・ 受け入れ環境の整備（DX化、自動化など）は必要であるが、人材育成という具体の事業の中身については、公的に資金を投入できる余地は少ないと思う。率直な印象としては、エビデンスに基づくならば、現在の事業内容は「不要」（あるいは使途として不適切）かもしれないと感じた。
- ・ ①長期アウトカムはインバウンド6000万人ではなくグラハンの定着率や数年の辞職率の減少などにしたほうが良い。②アウトプットを増加させるためには補助申請をしやすくする必要がある。デジタル化などを進めていくこと。
- ・ 長期アウトカムの設定について、空港業務の持続性という目標により沿った設定と出来ないか、ご検討いただきたい。短期のアウトカムと補助の採択基準が整合しているのかについてもご確認いただきたい。一方で、労働集約型の産業であり、一定の人員の確保が重要である点については理解した。
- ・ 本事業の目的は、「空港におけるサービスの質」を維持・向上させることだと考える。あるべきグランドハンドリングや保安検査の定義が必要ではないか。旅客ハンドリング（フロント業務）とランプハンドリング（ミドルバック業務）、それぞれの業務の質向上に必要な項目を検討していただき、アウトカムに反映いただきたい。人材採用、人材開発においても、質の高いサービスを提供するサービスのブランドは価値を有する。
- ・ 事業の原点と国民の価値を振り返る 貢献を可視化する 現場の声や成功・事例主体的な改善提案を重視し、アウトカム指標の設定にも参加いただき動機づけにできないか。
（長期アウトカム）地方空港の国際線新設・増便数 訪日外国人の地方分散 地方空港の経営指標（中期 短期）離職率定着率 給与上昇率 時間外労働 ES 指標 一便旅客一人当たり業務処理時間 GSE 電動化率共用化。

【外部有識者のその他コメント】

- ・ これに合わせて、レビューシートの目的欄などの記述も見直しも進めていただきたい。
- ・ 我が国の玄関口にあたる空港に関係する人材の育成・確保は、重要だと思う。しかしながら、この事業は、税を投入する事業というより、規制によって対応すべき側面が強いのではないかな。なお、地方空港については、そもそも仕事量（利用者数）が少ないので、雇用形態が難しいと感じた。
- ・ 事業開始はコロナ対策だったところ、全体としてはコロナ前の水準を超えてきていることから、いつまでも補助を継続するのではなく一定の時限を決めることを検討したほうが良い。
- ・ （効率性の観点から考慮頂きたい事項）コロナ渦からの連続性に疑義。7大空港への偏重→地方・中小の重点化 申請手続簡素化 サポート。（人材確保の点から促進を検討頂きたい事柄）特有の労働環境 仮眠施設 気温 安全性（ロボット化 監視システム）。（補助依存から脱却するための考慮点）自立型インセンティブの導入 ノウハウ支援 共通化標準化（人材の空港間流動性支援）し、空港間交通が容易であるという希な強みを生かし千歳空港の職員が沖縄で臨時作業する等や勤務地不特定採用を推進。

（以 上）